

## 「アースマラソン」の間寛平さん、大西洋横断に成功! フルノの機器が安全航海をバックアップ

マラソンとヨットだけで地球一周する「アースマラソン」に挑戦中の間寛平さんを、当社はオフィシャルサプライヤーとして応援しています。アースマラソンの海路部分を走行する「Aeolus」(エオラス)号に、当社の航海用電子機器・無線通信装置などを提供し、太平洋・大西洋あわせて16,000キロの安全航海をバックアップ。

間寛平さんの現在位置はアースマラソン公式ブログで確認できます。

### アースマラソン公式ブログ

<http://www.earth-marathon.com/>



©間寛平アースマラソン製作委員会

### トピックス一覧

- 5月** ●自律航行機能を搭載したGPS受信機「GV-84」を開発  
●漁船用27/40メガDSB送受信機「DR-100、DM-200」を開発
- 6月** ●10.4型カラー液晶レーダー「MODEL1835/1945/1937」を開発
- 8月** ●業界初「カラーユニバーサルデザイン認証」を取得した視認性抜群のPDA型モバイル情報端末「finpad 700i」を発売

表紙イラスト：須磨はじめ

マリンギアライター。自ら描く著書の挿絵から水彩画の世界へ。プレジャーボートを素材にした作品が多い。

事業年度	毎年3月1日から翌年2月末日まで
定時株主総会	毎年5月開催
基準日	
定時株主総会	毎年2月末日
期末配当金	毎年2月末日
中間配当金	毎年8月31日
その他、必要がある場合はあらかじめ公告いたします。	
公告の方法	電子公告 (http://www.furuno.co.jp)
	ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載する方法により行います。
単元株式数	100株
上場金融商品取引所	株式会社大阪証券取引所 市場第一部
証券コード	6814
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
株主名簿管理事務取扱場所	〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
(郵送物送付先)	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
(お問合せ先)	☎0120-288-324

#### 上場株式等の支払に関する通知書について

租税特別措置法の平成20年改正(平成20年4月30日法律第23号)により、平成21年5月および11月にお支払する配当金について株主様あてに「支払配当金額」や「源泉徴収税」等を記載した「支払通知書」を通知することとなりました。配当金を配当金領収証にて受取られる株主様は、来年の確定申告手続きに合わせて、平成21年末～平成22年初に「支払通知書」を送付いたしますのでご覧ください。(なお、口座振込を指定されている株主様は配当金をお受取の際に送付されている「配当金計算書」が「支払通知書」となりますので、引続き確定申告の際の添付資料としてご利用ください。)

#### 株主様のご住所・お名前等に関する文字についてのご案内

株券電子化実施に伴い、株主様のご住所・お名前等の文字に、株式会社証券保管振替機構(ほふり)が振替制度で指定していない漢字等(いわゆる「外字」)が含まれている場合は、その全部または一部をほふりが指定した文字またはカタカナに変換して、株主名簿に記録いたしております。このため、株主様にご送付する通知物の宛先が、ほふりが指定した文字に置き換えられる場合がありますのでご了承ください。株主様のご住所・お名前等として記録されている文字については、お取引の証券会社等にお問い合わせください。



**古野電気株式会社**  
<http://www.furuno.co.jp>

# 株主の皆様へ

## 第59期 中間報告書

2009年3月1日～2009年8月31日

証券コード 6814



大型客船の接岸(神戸港)

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。第59期中間期(2009年3月1日から2009年8月31日まで)が終了いたしましたので、ここにその事業概況と今後の見通しについてご報告いたします。

**需要全般が落ち込む中、生産効率の向上と経費削減を図りました**

当中間期、世界経済は依然として厳しい状況が続き、企業の業績に改善の兆しが見え始めた米国、欧州でも、個人消費の回復までには至っていません。アジア各国も、景気刺激策の効果もあって経済情勢が好転した中国を除いては、総じて低調に推移しました。我が国でも、景況感は緩やかに回復しつつあるものの、雇用環境や所得の悪化が消費全般に悪影響を与える状況が続きました。

当社グループの主力市場である船用電子機器の分野では、

商船市場のリプレイス(買い替え)需要や、景気の影響を受けやすいレジャーボート市場の需要が落ち込みました。一方、産業用電子機器の分野では、GPS(全地球測位システム)を搭載するカーナビゲーションシステムの需要は低調でしたが、高速道路の料金割引制度を背景に、ETC車載器の需要が高水準で推移しました。

このような状況のもと、当社グループは生産効率の向上や経費削減などに積極的に取り組みましたが、景気低迷に加えて大幅な円高の影響も受け、レジャーボート市場を中心に売上が減少し、減収減益となりました。

**商品の機能増強と生産効率の改善により収益力の向上に努めます**

当社グループを取り巻く事業環境は、今後も厳しい状況が続くことが予想されます。

このような状況の中、船用電子機器分野では、商船市場においてこれまでの高水準の受注により相応の仕事量を確保しているものの、今後生産効率の改善によるコストダウンを図り、収益力のさらなる向上に努めます。産業用電子機器分野では、買収した米国eRide(イーライド)社と共同でGPS関連機器の技術開発を促進し、カーナビゲーション市場のみならずセキュリティ市場など需要拡大が期待される市場に向けて、より高感度のGPSモジュールを展開していく予定です。また、医療用機器関連では、海外を中心に販売拡大を進め、事業規模の拡張に取り組みます。

当期の中間配当金につきましては、前期の中間配当金より2円減配し1株につき5円とさせていただきます。

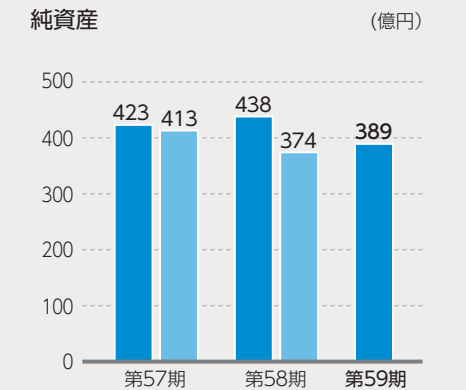
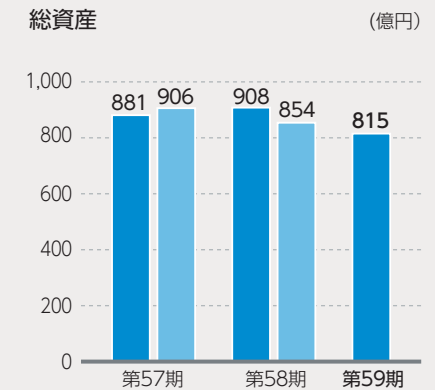
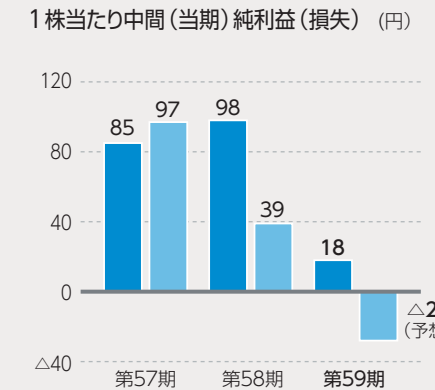
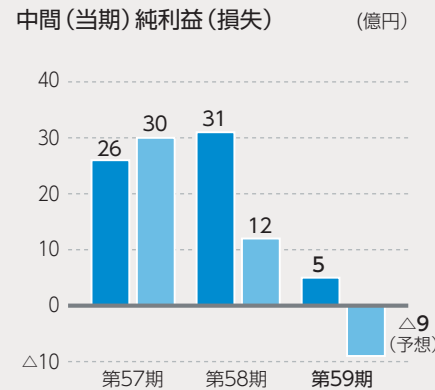
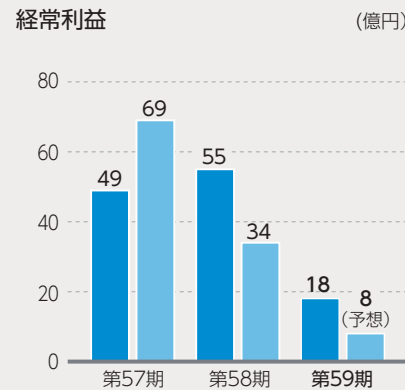
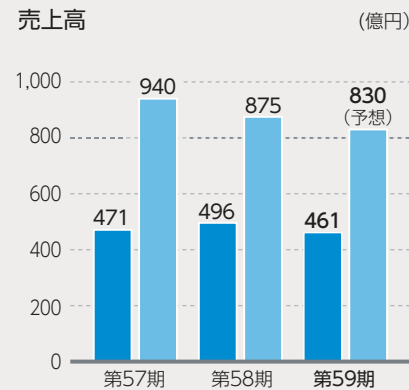
株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2009年11月

代表取締役社長  
古野幸男



連結業績ハイライト ■ 中間 ■ 期末



## 船用電子機器部門

340億2,500万円  
(前年同期比15.4%減)



27メガ DSB 送受信機「DR-100」

### 国内

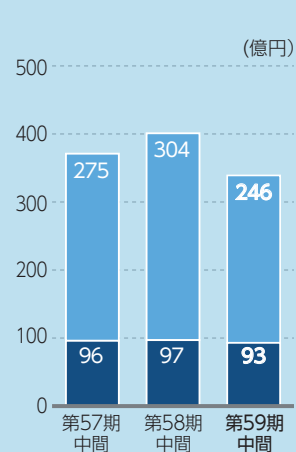
●景気の悪化や顧客の設備投資抑制が継続する環境下で販売が苦戦し、漁業市場では売上を維持したものの、商船市場およびプレジャーボート市場の売上が減少しました。

### 海外

●プレジャーボート市場は主要市場である米国および欧州での需要が大幅に落ち込んだことに加えて、円高の影響もあり、売上が大幅に減少しました。

●リプレース需要が冷え込んだことにより、商船市場も欧州を中心に売上が減少しました。

売上高 ■国内 ■海外



## 産業用電子機器部門

120億7,800万円  
(前年同期比27.7%増)



生化学自動分析装置「CA-400plus」

### 国内

●カーナビゲーションシステム市場の低迷などにより、GPS関連機器の売上が減少しました。

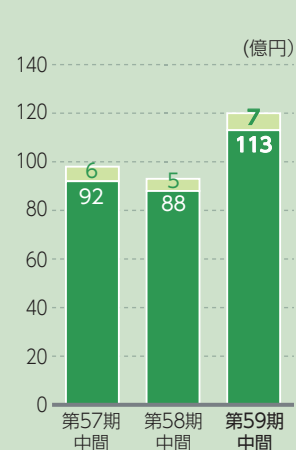
●高速道路の料金割引制度を背景に、ETC車載器の売上が大幅に増加しました。

●生化学分析装置の販売が好調に推移し、医療用機器の売上が増加しました。

### 海外

●GPS機器の輸出が低調に推移したものの、小型の生化学分析装置を中心に医療機器の輸出が好調で、売上が増加しました。

売上高 ■国内 ■海外



「海底から宇宙まで」  
FURUNO 製品紹介

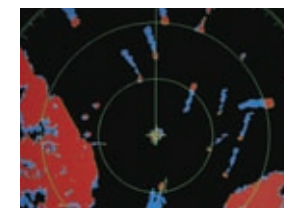
01

# レーダー

船にとって「目」の役割を果たす  
レーダーは、安全な航行に欠かせない存在です。

周波数の高い電波は、物体に当たると反射して一部が戻ります。山びこと同じこの原理を利用したのがレーダーです。レーダーは波長の短いマイクロ波を発射してその反射波をとらえることにより、物標までの距離と方位を正確に測定し、その様子を映像として表示します。海上で視界のきかない濃霧や雨天、夜間でも他船の動向を把握したり、衝突事故を未然に防ぐのに、レーダーは欠かせません。古野電気のレーダーは、漁船や商船、プレジャーボートのほか、高い安全性が求められる作業船や、過酷な環境下でも洋上業務を遂行する官公庁船の安全航行に貢献しています。

### 10.4型カラー液晶レーダー MODEL 1835/1945



海面・雨雪反射の除去機能に加え、受信感度を瞬時に最適化する高性能オートモード、他船などの移動体を連続的に監視・拡大表示する機能など、最新機能を搭載。広範囲の監視や、船舶自動識別装置などの情報表示も可能です。



### 「S・P・Cテクノロジー」

Sensing Technology (センサー技術)、Processing Technology (信号処理/情報処理技術)、Communication Technology (情報通信技術)という古野電気の事業にとって不可欠な3つの技術。この頭文字をとって名づけた「S・P・Cテクノロジー」が古野電気のコアコンピタンスです。



中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	前中間期 2008年8月31日現在	当中間期 2009年8月31日現在	前期 2008年2月28日現在
①→ 流動資産	70,555	62,622	66,254
固定資産	20,301	18,889	19,239
有形固定資産	10,257	9,747	9,744
無形固定資産	1,187	1,075	1,132
投資その他の資産	8,856	8,066	8,363
<b>資産合計</b>	<b>90,856</b>	<b>81,511</b>	<b>85,494</b>
流動負債	34,359	28,571	36,289
固定負債	12,606	13,955	11,718
<b>負債合計</b>	<b>46,966</b>	<b>42,526</b>	<b>48,008</b>
株主資本	42,406	40,638	40,316
資本金	7,534	7,534	7,534
資本剰余金	10,074	10,074	10,074
利益剰余金	24,975	23,207	22,885
自己株式	△177	△178	△178
評価・換算差額等	975	△2,069	△3,259
少数株主持分	508	416	428
<b>純資産合計</b>	<b>43,890</b>	<b>38,985</b>	<b>37,486</b>
<b>負債及び純資産合計</b>	<b>90,856</b>	<b>81,511</b>	<b>85,494</b>

※中間連結財務諸表の記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

POINT

① 流動資産

適正在庫水準維持の取組みによる棚卸資産の減少などにより流動資産が減少しました。

② 販売費及び一般管理費

業務効率の向上に取り組んだことにより販売費及び一般管理費が減少しました。

中間連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	前中間期 2008年3月1日から 2008年8月31日まで	当中間期 2009年3月1日から 2009年8月31日まで	前期 2008年3月1日から 2008年2月28日まで
売上高	49,674	46,104	87,585
売上原価	31,714	32,551	56,626
売上総利益	17,959	13,552	30,958
②→ 販売費及び一般管理費	12,674	11,966	26,414
<b>営業利益</b>	<b>5,285</b>	<b>1,585</b>	<b>4,544</b>
営業外収益	595	402	806
営業外費用	366	143	1,873
<b>経常利益</b>	<b>5,514</b>	<b>1,844</b>	<b>3,477</b>
特別利益	103	313	561
特別損失	402	136	1,018
<b>税金等調整前中間(当期)純利益</b>	<b>5,215</b>	<b>2,021</b>	<b>3,019</b>
法人税、住民税及び事業税	1,945	652	2,156
法人税等調整額	96	779	△457
少数株主利益	63	16	89
<b>中間(当期)純利益</b>	<b>3,110</b>	<b>573</b>	<b>1,231</b>

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	前中間期 2008年3月1日から 2008年8月31日まで	当中間期 2009年3月1日から 2009年8月31日まで	前期 2008年3月1日から 2008年2月28日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,362	△1,046	2,314
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,120	△414	△3,386
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,397	607	△1,584
現金及び現金同等物にかかる換算差額	△119	288	△1,841
現金及び現金同等物の増減額	△2,275	△565	△4,497
現金及び現金同等物の期首残高	16,063	11,813	16,063
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増減額	248	—	248
<b>現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高</b>	<b>14,035</b>	<b>11,248</b>	<b>11,813</b>

株式状況

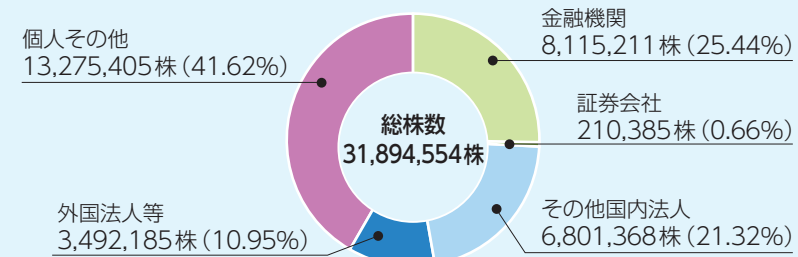
発行可能株式総数	120,000,000株
発行済株式の総数	31,894,554株
株主数	5,062名

大株主の状況

株主名	持株数 (千株)	出資比率 (%)
古野興産株式会社	4,697	14.89
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	1,122	3.56
第一生命保険相互会社	1,000	3.17
株式会社三菱東京UFJ銀行	992	3.15
みずほ信託銀行株式会社退職給付信託みずほ銀行口 再信託受託者資産管理サービス信託銀行株式会社	942	2.99
古野清孝	939	2.98
古野電気取引先持株会	809	2.57
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口4)	732	2.32
古野清賢	620	1.97
エコー興産有限公司	560	1.78

(注) 出資比率は、自己株式(348,149株)を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況



※個人その他には、自己株式348,149株(1.09%)を含んでおります。

会社概要

社名	古野電気株式会社
英文	FURUNO ELECTRIC CO., LTD.
設立年月日	1951年(昭和26年)5月23日
本社所在地	〒662-8580 兵庫県西宮市芦原町9番52号
電話番号	0798-65-2111(代表)
資本金	7,534,542,650円
主な事業	船用電子機器および産業用電子機器などの製造販売
従業員数	2,700名(連結) 1,733名(個別)
生産/研究開発拠点	三木工場・フルノINTセンター・西宮事業所
国内販売拠点	兵庫・北海道・青森・宮城・千葉・東京・石川・静岡・愛知・三重・和歌山・鳥取・広島・山口・徳島・愛媛・高知・福岡・長崎・宮崎・鹿児島・沖縄
海外拠点	アメリカ・デンマーク・フィンランド・ギリシャ・オランダ・スペイン・フランス・イギリス・ノルウェー・ロシア・スウェーデン・ポーランド・ドイツ・中国・シンガポール

役員

代表取締役会長	古野清之
代表取締役社長	古野幸男
専務取締役	森博行
常務取締役	谷垣英敏
常務取締役	飯野博司
常務取締役	小池宗之
常務取締役	井澤亮三
取締役	和田豊
取締役	石原真次
取締役	矮松一磨
常勤監査役	坂井譲
常勤監査役	鶴崎公二
社外監査役	家近正直
社外監査役	吉本健一